

なも交通を遮断し今度は五分間の間隔を置いて十五名宛對岸に渡らす旨を宣言した。これを聞いた労働團は、警察機嫌上を叫び大紛擾となつたが雙方妥協の上労働團は二列縱隊となつて安治川發電所へ向ふことになり行進を開始した時に午後十一時である。

安治川發電所前は警官三百名で嚴重な警戒を施したので組合旗を先頭に労働歌とデカンショ節を高唱して氣勢を揚げつゝ突撃して來た。示威運動も此體に策の施しやうもなく只警官の垣の外から罷工團萬歳を連呼しなから春日出發電所にさ向ひ、蘆分橋を渡つてから驅足となり物凄い勢で繰り出した。

急報に接した朝日橋署及び應援各巡查二百名は驚破一大事とばかりに蘆分橋から同發電所に到る十數町の間を一閃の間隔を置いて巡查を配置し闇の中に帶劍の鞘が薄の如く光つて凄怖な感は宛然安治川一帯に戒嚴令を施れたが如くあつた、此處でも矢張り列を進めるのみで近寄れず警官の油断を脱つて同發電所の外廓の窓を目蒐けて砂礫を投げつけ發電所前を北に橋を渡り發電所の北平から労働歌を高唱して午後十二時無事散會した。

此の騒擾の爲め檢束された職工は川口署に三名、福島署に二名で負傷者は重軽傷者約三十數名に達し重傷者は西區本田町一丁目長谷川病院に收容治療を受けた(大阪朝日新聞)

斯く警官との大亂闘に終つた翌日十五日には、大電罷工團を中心として關西労働組合聯合會は京神の労働團體の應援を得て大阪市内の各種労働團體を糾合して、淀川河畔十三堤に於て聯合労働團大運動會を開催せり。此運動會は罷工職工等會社の容易に要求を容れざるに對し、是亦其の主張を撤回せず、兩々相對峙して持久戦を繼續しつゝありしも、解決の曙光だも見えざる爲、聊か之に業を煮やして腕白騒ぎの運動會を爲し、一方示威運動をせんと企てより彼等は之を別に「ヤケクソ運動會」と呼べり。當日の状況左の如し。

此の日は労働者の定休日と加ふるに日曜の事として、多數労働團體参加を見込み、警察側では萬一に備へるため嚴重警戒前夜の衝突に鑑み互に満を持して放たず専ら私服の密偵をして動靜を注意するに止めた。運動會参加の各労働團體は十時一齊に北區西野川の友愛會支部を訪問し同所で更に列を整へ數百名づゝ一團となり大電罷工團、友愛會、ブラシ工組合、新進會(住友伸銅所)造船工、尼崎メモント等十團體に分れ友愛會大阪聯合會長島種吉氏總指揮官となり、會旗又は機文を大書した大旗を押し立て、各自労働歌、罷工團の歌を高唱しつゝ、十三堤に向つた。午前十一時十分會場には大電罷工團約百名が刷子工組合、大阪機械労働組合員等約百名に應援され會旗を先頭に「餓死するまで戦はん」「殘虐なる大電を呪ふ」と認めた白の吹き流しを押し立て繰込んだ二百名を先鋒隊として陸續集集し午後一時頃には千名に達した。

警察部では難波署の横地、戎署の徳久兩偵察隊長以下百名近い私服巡查が團體に交じつて嚴重なる警戒裡に正午總指揮官島種吉氏の演説で開會され、次いで東氏及び神戸友愛會藤岡氏等の熱烈な演説があり更に五分間演説に移り神戸新人労働團、京都友愛會其他代表者の應援演説を了つて一時から各種運動競技を開始した。

相撲、マラソン等を一通り行つて最後に「労働爭議模擬戦」を行ひ「資本家を驅除せよ」と書いた旗竿の先端に人形を附け労働者は防禦と攻撃の兩隊に分れ警官隊と労働團との衝突を諷刺し結局攻撃組が人形を奪取し二回萬歳を叫び更に「中之島へ、中之島へ」を繰返して午後三時運動會を閉じた(大阪朝日新聞)

之より先き警察部に於ては前日の示威行列不許可の結果、警官との大亂闘を惹起せるに鑑みる處あり、示威運動を許可せざるは却て危険を導き易く、徒に野次馬等の附和雷同の機會を滋からしむるに過ぎざるを慮り、當日の大運動會舉行労働團體の中心人物を召喚して閉會後行ふべき示威行列には責任者を一隊毎に附して指揮せしめ、混亂を未然に防ぐ爲に各隊の間隔を相當に取り責任ある行列を行ふべき旨嚴命し、尙屋外演説を絶對に禁止する旨を申渡したるに西尾、東以下一同諒して退出せり。

然れども昂奮せる職工等は又復民衆の此の行列に追隨するに及びては、漸く秩序を失ひ、大阪朝日新聲社前より大電本社に向ひ船津橋にて解散の筈なりしも豫定を變更し安治川、春日出兩發電所前に